

〈幼稚園教育〉



友達と一緒に遊びを進める喜びや楽しさを味わうための援助の工夫 ～ 幼児の主体性を生かした集会を通して ～

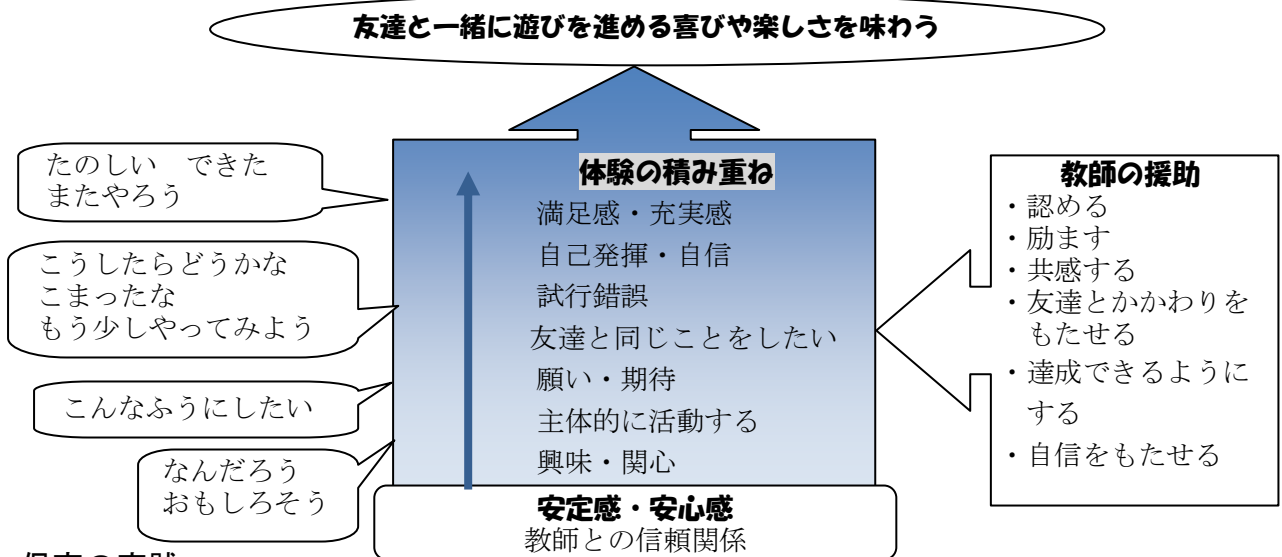
与那原町立与那原東幼稚園教諭 川端 和歌子

1 研究のテーマについて

これまでの保育を振り返ってみると、幼児一人一人をしっかりと理解し、気持ちや意欲を受け止め、幼児の主体性を生かした援助をしていただろうか。特に集会においては、その必要性や保育の連続性を視点に意図的計画的であったか反省をする。

そこで、幼児の主体性を生かした集会への取り組みの援助を人とかかわる力を育てるためのひとつの手立てと捉え、一人一人の幼児理解を深め、幼児が友達と一緒に遊びを進める喜びや楽しさを味わわせたいと考え、本テーマを設定した。

2 研究の特徴



3 保育の実践



(1) 「わくわくタイム」



(2) 「友達と一緒になんでも大会を楽しもう①」



(3) 「友達と一緒になんでも大会を楽しもう②」

4 研究の成果

- (1) 教師が幼児のありのままの姿やよさを認めることで、幼児は安心感をもって主体的に遊びに取り組み、自己を発揮する姿が見られるようになった。
- (2) 集会の内容を見直し、幼児の興味・関心に添った遊びを取り入れたことで、幼児が満足感や充実感を味わい、友達と遊びを進める楽しさを共有し、一体感を感じた。

<幼稚園教育>

友達と一緒に遊びを進める喜びや楽しさを味わうための援助の工夫 ～ 幼児の主体性を生かした集会を通して ～

与那原町立与那原東幼稚園教諭 川 端 和 歌 子

I テーマ設定理由

幼児期は、家族との関係だけでなく、集団生活等を通して家族以外の人々の存在に気付き、かかわりの中で味わった楽しい体験から人とかかわる力の基礎を培う時期である。

近年、社会状況の変化に伴い、3間（遊び空間・時間・仲間）の減少と幼児の今日的教育課題との関係が取り上げられるようになってきた。

本地域でも兄弟姉妹や地域の幼児同士がかかわって遊ぶ機会や遊び場の減少が見られ、幼稚園においても幼児の人とかかわる力の低下が感じられるようになってきている。

入園してくる幼児たちのなかにも、家族以外の人とかかわりの体験が少ない子や生活体験に大きな違いがあることを踏まえると、幼稚園等において、幼児同士が相互にかかわり合い、生活することの意義は大きいと捉える。

幼稚園教育要領の領域「人間関係」、内容の取り扱いでも、「幼児の主体的な活動は、他の幼児とかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児は其中で互いに必要な存在であることを認識することになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。特に、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすること」と示されている。

これまでの保育を振り返ってみると、幼児一人一人をしっかりと理解し、気持ちや意欲を受け止め、幼児の主体性を生かした援助をしていただろうか。特に集会をする場合においては、その必要性や保育の連続性を視点に意図的・計画的な集会であったか反省をすることがあるところである。

本研究において、幼児が幼稚園生活の様々な場面で友達とかかわる楽しさを味わい、仲間とともに共通の目的に向かって遊びを進める体験を通して、一人では味わえない集団ならではの喜びや楽しさを感じるような保育の展開を探っていきたい。

そこで、幼児の主体性を生かした集会への取り組みの援助を人とかかわる力を育てるためのひとつの手立てと捉え、一人一人の幼児理解を深め、幼児が友達と一緒に遊びを進める喜びや楽しさを味わうための援助の工夫について研究したいと考え、本テーマを設定した。

II 研究の目標

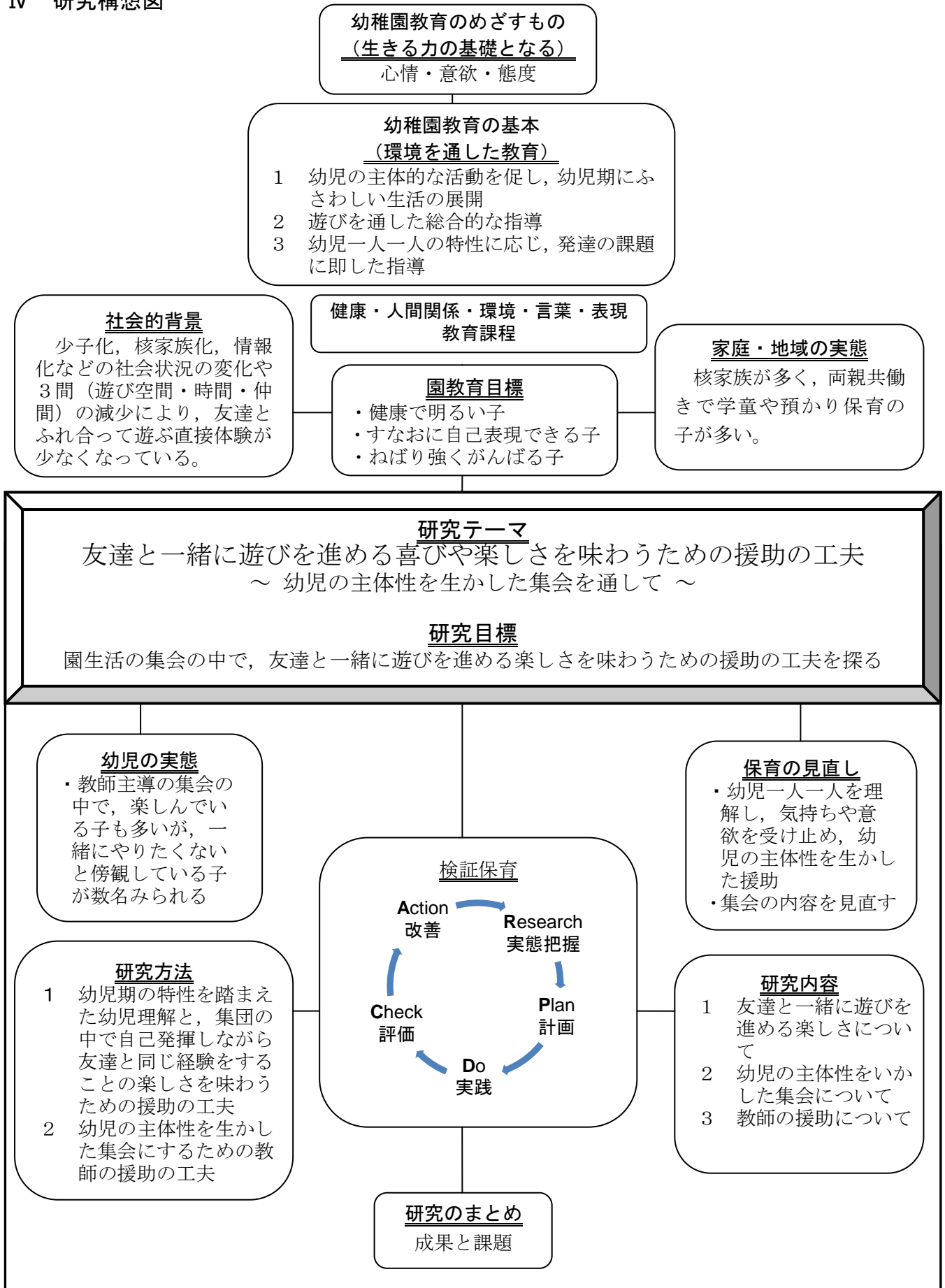
園生活の集会の中で、「友達と一緒に遊びを進める喜びや楽しさを味わうための援助の工夫」を探る。

III 研究の方法

保育実践の集会において、次のような方法を行う。

- 1 幼児期の発達の特性を踏まえた幼児理解と、集団の中で自己発揮しながら友達と同じ経験をすることの喜びや楽しさを味わうための援助の工夫。
- 2 幼児の主体性を生かした集会にするための、教師の援助の工夫。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 友達と一緒に遊ぶ楽しさについて

(1) 幼児期における人とかかわる力

幼稚園教育要領解説によると、幼児期における人とかかわる力の基礎は、「自分が保護者や周囲の人々に温かく見守られているという安心感から生まれる人に対する信頼感をもつこと、さらに、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる」とある。

幼稚園生活においては、「教師との信頼関係に支えられた生活」「興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活」「友達と十分にかかわって展開される生活」が保育の中で展開されることで、幼児が充実感や満足感を味わい、人とかかわる力がはぐくまれていくものと捉える。

(2) 幼児期の特性

幼児期は、家庭における保護者などとの関係だけでなく、他の幼児や家族以外の人々の存在に気付き始め、次第にかかわりを求めるようになってくる時期である。

また、集団生活においては、次第に他者の存在を意識し、他者を思いやったり、自己を抑制したりする気持ちが生まれ、同年代での集団生活を円滑に営むことができるようになる時期へ移行していく。

このような幼児期の発達の特性を十分に踏まえ、見通しをもった、きめ細かな対応が図れるようにすることが重要である。

(3) 友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう過程

幼稚園生活の中で、幼児は他の幼児と一緒に楽しく遊んだり活動したりすることを通して、互いのよさや特性に気付き、友達関係を形成しながら、次第に人間関係が広がり深まっていく。人間関係が深まるにつれて、幼児同士がイメージや思いをもって交流しながら、そこに共通の願いや目的が生まれる。そして、それに向かって遊びや活動を展開する中で、幼児同士が共に工夫したり、協力したりするようになっていく。このようなことは、幼稚園生活の中で友達との様々なかかわりを体験しながら次第に可能になっていくものである。

表1 幼児が友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう過程

①入園当初の幼児は、他の幼児と一緒にいることや同じことをすることで、人と共にいることの喜びや人とつながる喜びを体験する。
②自分らしさを十分に発揮し、次第に仲の良い友達と思いを伝え合いながら、遊びを進める。
③自分の世界を相手と共有したいと願う。
④幼児同士が、イメージや目的を共有し、それを実現しようと互いに自己主張し、時にはぶつかり合いながら、折り合いを付けることを繰り返し、工夫したり、協力したりする楽しさや充実感を味わう。

一緒に遊ぶ体験を積み重ねていく

一人で遊ぶよりも、友達と一緒に遊ぶことで、遊びがより豊かに楽しく展開できることを体験し、友達がいることの楽しさに気付く。

(4) 幼児期における個と集団の役割

一人一人の幼児の発達は、同年代の幼児と教師が共に生活する中で促されていく。集団生活の中で幼児同士がよい刺激を受け合い、相互にモデルになるなど影響しながら育ち合うのである。このような育ち合いがなされるためには、その集団が一人一人の幼児にとって安心して自己を発揮できる場になっていなければならない。集団には、「同じものへの興味や関心、あるいは同じ場所にいた

ことからかかわりが生まれる集団」,「同じ目的をもって活動するために集まる集団」,「学級のようにあらかじめ教師が組織した集団」がある。それぞれの集団の中で、幼児が主体的に活動し多様な体験ができるように援助していくことが必要である。

2 幼児の主体性を生かした集会について

(1) 集会について

幼児にとって「集まる」ことも1日のなかで大きな楽しみである。園によって、あるいは年齢や時期によって「集まる」回数や内容は異なるが、1回も「集まらない」という園はほとんどない。

入園当初の不安なときには教師のまわりに集まって絵本を見たり、話を聞いたりすることによって安心を抱く幼児も多い。はじめての集団生活である園において、ホームベースであるクラス集団の中でも自分は大事なメンバーであると実感し自らの居場所を見つけ、社会生活の喜びを味わうとともに必要なマナーやルールを身につけさせることは園の役割のひとつである。

幼児にとってクラス全体の活動が楽しく意味あるものであれば喜んで集まる。クラス・学年全体で取り組む活動、いわゆる「一斉活動」を通して集団のなかで行動する心地よさを味わい、集団のなかで一人一人が生かされる経験を積み重ねていく。時には、一堂に会して同じ経験をすることの楽しさや必要さを味わうことは大切なことである。

視点を変えれば、クラス全体(学年・園全体の場合もある)の活動とは時間的・空間的には自己選択の幅は狭い活動ではあるが、それは幼児の主体性を阻むものではない。「自由」か「一斉」かというように対極的に両者を見ることは誤りである。両者は幼児の経験という視点からは連続しており、全体の活動での経験は「好きな遊び」の充実と深くかかわっている。そして、友達と遊ぶ楽しさの経験を重ねる中で、仲の良い友達だけではなくいろいろな友達と一緒に、さらには、学級全体と一緒に遊ぶことができるようになっていく。学級全体で行う活動の場合、幼児は、小さなグループでは味わえない集団での遊びの楽しさを感じることができると捉える。

(2) 幼児の主体性が発揮されるとき

「幼児の主体性」とは、幼児が自ら身の回りの人やものなどに興味や関心をもち、自ら働き掛けていくことである。

河邊(2005年)『遊びを中心とした保育』によると、「幼児の主体性が発揮されるときというのは、そのものに興味・関心が高まったときである。興味・関心を示しはじめると、幼児は自分のイメージを自由に発揮したがるものである。保育者は、幼児の興味・関心を高めるために、計画的に環境を構成していきながら自分の計画に幼児を『合わせる』のではなく、幼児の取り組みの姿との相互交渉を通して保育を展開していくべき」と述べている。

3 教師の援助について

(1) 幼児が主体的に活動するための環境構成について

幼稚園教育は「環境を通して行う教育」が基本である。環境とは、物的な環境だけではなく、教師や友達とのかかわりを含めた人的環境、天候や自然物などの自然的環境など場や空間・時間、そこに流れる雰囲気など、幼児たちの周囲にあるすべてのものが環境である。

環境を構成するとは、それらの環境を幼児の育ちを見通して必要な体験ができるよう、教師が相互に関連させていくことである。すなわち、構成するとは、幼児が自らやりたいことに主体的に取り組めるように一緒になって構成していくことである。教師は、幼児が「やりたい!」と興味をもつような、魅力ある環境を整えること、そして、体験に挑もうとする意欲を引き出すようなかかわりや言葉かけを考えていく。

(2) 幼児の主体性と教師の意図

幼児の主体性と教師の意図がバランスよく絡み合うことで、幼児は発達に必要な体験をしていく。つまり、教師主導の一方的な保育の展開ではなく、一人一人の幼児が教師の援助の下で主体性を

発揮して遊びを展開していくことができるような幼児の立場に立った保育の展開である。遊びの主体は幼児であり、教師は幼児の興味関心に添って、意図的計画的な環境を幼児が展開しやすいように構成していく。ここでいう環境とは物的な環境だけでなく、教師や友達とのかかわりを含めた状況すべてである。幼児は、このような状況が確保されてはじめて十分に自己を発揮し、健やかに発達していくものである。

(3) 教師の役割

教師は、幼児の発達の過程を見通し、具体的なねらい及び内容を設定して、意図をもって環境を構成し、保育を展開していくことが大切であると示されている。また、主体的な活動を通して幼児一人一人が着実な発達を遂げていくために、幼児の活動の場面に応じて教師は様々な役割を果たしていくことが求められている。そこで、教師の役割と援助の視点について表2に示してみた。

表2 教師の役割と援助の視点

教師の役割	援助の視点
活動の理解者として	・家庭との連携を図り、一人一人の発達やこれまでの生活経験、周囲の物や人との関係を捉え、活動の意味を理解する。
共同作業者 共鳴する者として	・教師自身も活動に参加することで、幼児の心の動きや行動を捉え、幼児の心情に共感することで、さらに活動への取り組みが意欲的になってくる。
モデルとして	・教師の日々の言動は、憧れを形成するモデルとなる。教師が一人一人を大切に作る姿勢が、幼児同士の互いを大切にする姿勢につながる。
遊びの援助者として	・一人一人の発達に応じた援助のタイミングや援助の仕方を考え、幼児の遊びの深まりや課題に応じた援助を行うことで、幼児の遊びを深め、主体的にかかわる力を育てる。
集団生活のなかで	・個と集団の関係を捉え、幼児が発達に応じて様々な経験ができるようにする。心のつながりをもった温かい集団をつくり出す。

VI 研究の実際

幼児の主体性を生かした集会にするために、「集会の内容」と「教師の援助」の工夫をし、3回の保育実践を行い、改善を図る。

1 保育実践（1回・6月）「わくわくタイム」

(1) 保育のねらい

- ・集会「わくわくタイム」の中で、ルールのある遊びやリズム遊びなどを通して、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

(2) 検証のねらい

- ・集会「わくわくタイム」のなかで、幼児の興味や関心に添った内容や自分の力を発揮して取り組めるようにし、全園児が楽しさを共有することができるような援助の工夫をする。

(3) 環境の工夫

- ・興味や関心を持てるようなリズム遊びの曲を用意する。
- ・フルーツバスケットがスムーズに進められるように、フルーツの絵を表示する。

(4) 教師の援助

- ・昆虫に興味や関心がある姿を受け止め、その関心に添ったリズム遊びを楽しめるようにする。
- ・自分なりに表現を楽しみながら、リズムにのって踊っている姿を認める。
- ・友達とルールのある遊びが楽しめるように、ルールを説明したり、教師も加わったりして、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わわせていく。
- ・ゲームの中で戸惑っている子には、励ましの言葉かけをしたり寄り添ったりしながら、遊びが楽しめるようにする。

(5) 実践計画と結果

月日	検証のねらい	予想される 幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
6月16日 (月)	・リズム遊びに興味・関心を持たせる。	・踊りに興味・関心をもって踊る。	★昆虫に興味・関心がある姿を受け止め、その関心に添ったリズム遊び『昆虫太極拳』を提供し、楽しめるようにする。	・教師が踊る姿を見て、「おもしろそう!」「やってみたいな!」と興味を示して踊り、その子なりの表現を楽しみながら踊っていた。	・幼児の遊びの興味・関心に添った内容のリズム遊びだったので、楽しく踊っていた。
6月21日 (火)	・自分たちで踊りが楽しめるようにする。	・気の合う友達とリズムにのって踊る。	★保育者も楽しさを共感しながら一緒に踊る。 ★リズムにのって踊っている姿をほめる。	・教師が踊る姿を見て、真似をして踊り、その子なりの表現を楽しんでいた。	・踊りに興味、関心が高まり楽しんで踊っていた。
6月22日 (水)	・クラス全体で取り組むことで、楽しさを共有する。	・自分なりの表現を楽しみながらリズムにのって踊る。	★翌日の集会でひまわり組が隣のクラスに見せてよと言葉かけし、意欲を高めるようにする。	・隣のクラスに見せるということに、「いいよ!」と、意欲を持って取り組んでいた。	・楽しさを共有し、意欲を持って取り組んでいた。
6月24日 (木)	・みんなで取り組むことで友達とのふれあいや一緒に遊ぶ楽しさを共有する。 ・ルールのある遊びを楽しむ。 	・わくわくタイムに期待を持って参加する。	○フルーツバスケットのルールをわかりやすくするために、一人一人フルーツ絵が表示された首飾りを用意する。 ★ゲームの中で戸惑っている子には、寄り添いながら、遊びが楽しめるようにする。 ★みんなで楽しい時間を過ごせるように保育者も一緒に踊りやゲームを楽しむ。 	・リズムでは、自分たちが教えてあげるんだと意欲を持って、自分なりに表現を楽しんでいた。 ・友達と一緒にルールのある遊びを楽しんでいた。 ・鬼になって、不安そうにしている子が数名いた。	・みんなで取り組むことで、楽しさを共有し、クラス同士のつながりが持てた。 ・ルールのある遊びを楽しんでいた。 ・不安そうな子もいたが、励ましの言葉かけや寄り添うことで自分の思いを伝えてゲームを楽しむことができた。
<p>【考察】</p> <p>・クラスでリズム遊びを数日間楽しむことで、自分たちが踊りを披露するんだという意気込みが感じられた。</p>					

・幼児が披露しているのに、教師も一緒に踊ってしまったので、隣のクラスの幼児たちは、教師を見て真似ていた。幼児に任せて教師はそばで、手拍子をうちながら見守った方が、披露する幼児たちが生かされたのではないか。

【改善】

・幼児が主体的になって取り組めるような援助の工夫をする。

2 保育実践（2回・6月）「友達と一緒に“なんでも大会”を楽しもう①」

(1) 保育のねらい

・集会「なんでも大会」の中で、幼児の得意技を披露したり、友達と一緒に演じたりしながら、見ている側も友達の演じている姿に興味関心をもって一緒に楽しむ。

(2) 検証のねらい

・幼児が主体的に集会「なんでも大会」を、楽しめるような環境や援助の工夫をし、意欲が高まるような言葉かけをする。


(3) 環境の工夫


・遊びに必要な素材や材料を用意する。
・意欲や主体性を高めるために、なんでも大会の申し込み場所を設けたり、プログラムを表示したりする。

(4) 教師の援助

・みんなで、なんでも大会へのイメージを共通にもたせる。
・自分なりの目当てを持って取り組んでいる姿を認め、自信や意欲をもたせる。
・友達のがんばっている姿を伝え、互いに認め合えるようにする。

(5) 実践計画と結果

月日	検証のねらい	予想される幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
6月27日 (月)	・なんでも大会に興味を持たせる。	・友達が演じている姿を楽しんで見る。	○友達の取り組みやがんばっている姿が周りに伝わるように知らせたり、見せ合う場をつくらしたりする。 ★なんでも大会へ興味・関心を持てるように、他のクラスが帰りの会の中で行っている会を見て、楽しさを共感したり、友達のよさを認めたりできるような言葉かけをする。	・友達が演じている姿に「すごいな!」「上手だね!」などと友達のよさに気づく幼児の姿が見られた。 ・演じている幼児たちは、他のクラスの幼児たちがお客さんになったことで、意欲がさらに高まり、満足そうにしていた。	・なんでも大会を見に行くことで、共通のイメージをもち、友達のよさにも気づかせるきっかけとなった。 ・友達の刺激を受け、自分達もやってみたくて意欲が見られた。
6月28日 (火)	・クラスでもなんでも大会を楽しむ。 	・自分の得意技を見せる。 ・友達が演じている姿を楽しんで見る。	○自分たちで、曲を選択できるように、いろいろな曲や、楽しく踊れる曲を用意する。 ★自分なりの目当てを持って取り組んでいる姿を認め、自信や意欲が持てるようにする。	・恥ずかしそうにしながらも、みんなの前に出て演じる楽しさを味わっていた。 ・主体的に司会を進めていた。 ・演じている子たちに拍手をしたりして、興味、関心を持って楽しそうに見ていた。	・友達同士、いろいろな曲に合わせて踊りを楽しみ、友達と遊びを進める楽しさを味わっていた。 ・司会もやりたいという幼児の気持ちを受け止めたことで、緊張しながらも自分で進めたという満足感を味わっていた。 ・友達が演じている姿や楽しさを共感し、あこがれを抱いているようだった。
6月29日 (水)	・なんでも大会に期待を持たせる。	・自分の得意技を見せたり、友達と一緒に踊ったりする。	○遊びに必要なものが作れるように素材を用意する。 ★会の参加を各クラスに呼びかける。	・アイディアを出し合いながら、マイク作りやダンスの小道具作りを楽しんでいた。 ・翌日の会に向けて、意	・友達と遊びに必要なものを作ったり、遊びを楽しんだりすることでなんでも大会に期待や意欲が高まってきた。

			★自分なりの目当てを持って取り組んでいる姿を認め、自信や意欲が持てるようにする。	欲を持って自分の得意技を練習したり、友達と話し合いながら、踊りを楽しんでいた。	
6月30日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・全園児でなんでも大会を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意技を見せたり、友達と一緒に踊ったりする。 ・友達が演じている姿を楽しんで見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に参加できるように、なんでも大会の申し込み場所を設けたり、プログラムを表示したりする。 ★自分なりの目当てを持って取り組んでいる姿を認め、自信や意欲が持てるようにする。 ★次回のなんでも大会をどんなふうにしたいか、みんなで考える機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・期待を持って取り組んでいたが、緊張している様子も見られた。 ・みんなに認められて満足そうにしていた。 ・見る側も拍手をしたり、認めたりしながら楽しんでいた。 ・友達との話し合いがうまくいかずダンスを楽しめない子が一人いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その場から離れる子もいなくて、ほとんどの子がなんでも大会を楽しむことができた。 ・出演する子が少なかったため、個に応じた援助を深めていく。 ・ダンスのグループの友達関係のなかで幼児に合わせた援助が足りなかった。
【考察】					
<ul style="list-style-type: none"> ・なんでも大会を見に行くことによって共通のイメージを持つことができた。 ・友達がやっている姿に刺激され、意欲的に取り組んでいる姿が見られた。 					
【改善】					
<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの考えや思いを出し合いながら、友達との遊びを楽しめるような援助の工夫をしていく。 					

3 保育実践（3回・7月）「友達といっしょに“なんでも大会”を楽しもう②」

(1) 設定の理由

- ① 教材観（省略）
- ② 幼児観（省略）
- ③ 指導観

友達と一緒に遊びを進める喜びや楽しさを味わわせるため、2回の保育実践を通して幼児が興味・関心が持てるような遊びや集会の工夫を行ってきた。その結果、幼児一人一人の気持ちや意欲を受け止め、興味・関心に添いながら援助していくことが大切であると分かった。

そこで、幼児が幼稚園生活の様々な場面で友達とかかわる楽しさを味わい、仲間とともに共通の目的に向かって遊びを進める体験を通して、一人では味わえない集団ならではの喜びや楽しさを感じるような援助をしていく。

(2) 保育のねらい

- ・友達と考えを出し合いながら、会を進めていく楽しさを味わう。
- ・自分の力を発揮し、友達の良さを認め合いながら、みんなで集会を楽しむ。

(3) 検証のねらい

- ・意欲的になんでも大会を楽しむことができるように幼児の気持ちに添いながら言葉かけや援助をする。

(4) 環境の工夫

- ・なんでも大会に必要な物を考え、幼児たちの発想が活かせるように、いろいろな材料や用具を準備する。

(5) 教師の援助

- ・いろいろなことに取り組んでいる姿を認め、自信や意欲が持てるようにする。また、友達のがんばっている姿を伝え、互いに認め合えるようにする。
- ・幼児たちが互いに認め合ったり、励まし合ったりしている姿を認め、友達とのつながりがもてるようにする。
- ・会の進行は、幼児たちでできるように役割を話し合い、自信が持てるように励ましたり、見守ったりする。
- ・発達に応じた援助をする。

(6) 実践計画と結果


月 日	検証の ねらい	予想される 幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
7 月 4 日 (月)	・なんでも大会に向けて必要な物を作る。	・気の合う友達と考えを出し合いながら遊びを楽しむ。	○なんでも大会に必要なものを考え、幼児たちの発想が生かせるように材料や素材を用意する。 ★自分なりの目当てを持って遊びを工夫している姿を認めたり楽しく踊っている姿に共感する。	・友達と考えを出し合いながら、獅子舞を作ったり、ダンスの練習をしたり、フラフープに挑戦していた。	・友達と思いや考えを伝えながら遊びを楽しみ、意欲が高まっている。 
7 月 5 日 (火)	・なんでも大会の受付をし意欲を高める。	・なんでも大会に出たい子は、申し込みをする。 ・プログラムを作る。	○なんでも大会に必要なものを考え、幼児たちの発想が生かせるように材料や素材を用意する。 ★一人一人のよさを認め励まし、主体的に参加できるようにする。	・プログラム作成をしたいという子が増え、楽しんで書いていた。 ・前回の刺激を受けて、初めて受付する子が数名見られ、主体性が見られた。	・主体性を持ってプログラム作りをする子やあまり人前に出ない子も受け付けに来ていて意欲的な姿が見られた。
7 月 6 日 (水) 本時	・自分の力を発揮し、友達の良さを認め合いながら、みんなでも大会を楽しむ。	・踊りやものまね、人形劇などを見せる。 ・友達の演技を見て楽しむ。	○会の雰囲気が出るように、プログラムを子どもと表示する。 ★保育者も一緒に楽しみながら、幼児たち一人一人が幼稚園の仲間と過ごす楽しさを味わえるようにする。	・友達と一緒に出演する子や一人で出演する子も自己発揮していた。 ・見ている子も友達の出し物に興味関心を持って見たり、友達のよさを認めたりしながら楽しんでいた。	※(8)検証保育の評価を参照



写真1 遊びに必要なものを作る








写真2 人形劇



写真3 鉛筆マジック

(7) 保育の展開 (本時)

<p>幼児の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要なものを友達といっしょに製作している姿が見られる。 ・なんでも大会に期待を持って、友達と思いや考えを出し合いながら遊びを楽しんでいる。 ・友達の刺激を受けて、フラフープやマジック、ダンスに取り組み、自分なりの目当てを持って遊んでいる子もいるが、お客さんになって楽しんでいる子もいる。 	<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の良いところや楽しく表現している姿に気づき、互いに認め合う。
	<p>予想される幼児の活動</p>	<p>○環境構成 ★教師の援助</p>	
<p>9:00</p> <p>○好きな遊びをする ダンス・獅子舞・フラフープ・バランス・製作(遊びに必要なもの)など</p>  <p>なんでも大会見に来てね!(チケット)</p> <p>10:15</p> <p>○片付けをする</p> <p>10:30</p> <p>○「なんでも大会」 ・司会をする ・プログラムに沿って会を進める</p>  <p>次は、ダンスです。○○さんどうぞ!</p>  <p>獅子舞だぞ~</p>  <p>○今日の大会について話し合う</p> <p>11:00</p> <p>○各クラスへ戻る</p>		<p>○リズムカルな曲や、楽しく踊れる曲を用意する。</p> <p>★保育者も遊びの中に参加し、一人一人の思いや友達と一緒に遊ぶことの楽しさを共感する。</p> <p>★一人一人の意見や発想を大切にしながら、友達と協力して遊びが進めていけるように見守る。また、トラブルが起きたときは、互いの思いを聞いたりして仲立ちをする。</p> <p>★それぞれの遊びが明日も楽しく継続できるように、教師も一緒に片付けをする。</p> <p>○会の雰囲気が出るように、プログラムを幼児と表示する。</p>  <p>楽しみだね♪</p> <p>プログラムここでいいかな?</p> <p>★幼児が自分たちで進められるように、役割を話し合い、自信が持てるように、励ましたり見守ったりする。</p> <p>★幼児同士で軽快なリズムに乗って楽しく踊っているように共感して、楽しい、雰囲気を盛り上げる。</p> <p>★その子なりの表現や力を発揮しているところを認め、自信を持って取り組めるようにする。</p> <p>★幼児が互いに認め合ったり、励まし合ったりしている姿を認め、友達とのつながりを深めていけるようにする。</p> <p>★それぞれの良さに気づくような言葉をかけたり、保育者の感動を素直に伝えたりなどして、次の意欲につなげるようにする。</p>	
<p>反省評価</p>	<p>友達と一緒に集会を進めていく楽しさを味わうことができたか。</p>		

(8) 検証保育（本時）の評価

- ① 友達と一緒に遊びを進める楽しさの面から
 - ア 幼児が自分たちで作ったプログラムに沿って、主体的に司会を進めたり、自分の力を発揮しながら演じたり、みんなの前で認められることで満足感を味わっていた。
 - イ 見ている子も友達の演じる姿に興味・関心を持って見たり、友達のよさを認めたりしながら楽しんでいた。
 - ウ みんなで楽しさを共有することで友達関係が広がった。
- ② 教師の援助の面から
 - ア 友達と一緒に活動に取り組んでいる姿を認めることで、意欲的に取り組み、自信へつなげることができた。
 - イ 友達のよさや頑張りについて、伝え合う場を設けることで友達のよさを認め合えることができた。
 - ウ 幼児の言動から、心を読み取ることが不十分なところがあった。

(9) 検証保育のまとめ

- ① 友達と一緒に出演する子や一人で出演する子も自己発揮し、満足感を味わっていた。
- ② 友達の良いところや頑張っているところを伝え合う場を設けることで友達の良さを認め合い、自信につながった。
- ③ 集会の内容を見直したことで、幼児が満足感や充実感を味わい、友達と楽しさを共有し、見る側と演じる側の一体感を感じていた。
- ④ 幼児の言動や反応等を読み取り、援助をすることの大切さを痛感した。

Ⅶ 研究のまとめ

本研究においては、園生活の集会の中で、「友達と一緒に遊びを進める喜びや楽しさを味わうための援助の工夫」を探りながら、保育実践を繰り返し行った。3回の保育実践の結果で分かったことをまとめる。

1 教師の援助と幼児の変容

保育実践	教師の援助	幼児の変容
1 「わくわくわくタイム」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の興味、関心に添ったリズム遊びをすることで、自分なりの表現を楽しんだり、教師も一緒に踊ることで、楽しさを共感することができた。 ・ 温かい信頼関係のなかで幼児は安心して自己を発揮しようとするのが分かった。 ・ 幼児が主体性を発揮するためには、幼児の活動を見守ることも大切な援助であることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊びの興味、関心に添った内容のリズム遊びだったので、楽しく踊っていた。 ・ 友達と同じ経験をすることで、楽しさを共有し、友達との触れ合いを楽しむことができた。 ・ リズム遊びを集会で披露することに期待を持たせたことで、意欲的に取り組んでいた。
2 「友達と一緒に楽しむも大会①」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児がやりたいものを実現するには、遊びに必要な素材や材料、用具などの環境を整えながら、共に環境をつくり出すことが大切である。 ・ 友達が演じている姿を見せる場を設けたことで、自分も「やってみたいな！」と良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりのイメージを実現しようとする姿やいろいろな曲で踊ったりしながら、友達と遊びを進めていた。 ・ 司会もやりたいという幼児の気持ちを受け止めたことで、緊張しながらも自分で進めたという満足感を味わっていた。

	<p>刺激となり次の活動への意欲につながるということが分かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの目当てを持って取り組んでいる姿を認めることで、意欲を高め、自信につなげることの大切さを再認識した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの前で演じた満足感や友達に認められたことで自信につながった。 ・見る側も拍手をしたり、認めたりしながら友達によさに気づき、楽しんでいた。
<p>3</p> <p>「友達と一緒になんでも大会を楽しもう②」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児たちの発想が生かせるように材料や素材を用意したことで遊びが深まった。 ・温かい雰囲気と信頼関係のなかで、自分の力を発揮することを再認識した。 ・見る側と演じる側の一体感が楽しさを共有することにつながるということを痛感した。 ・みんなで、なんでも大会の楽しかったことなどを話し合うことで、友達によさを認め合うことができた。 ・幼児が自分たちで進められるように、役割を話し合い、自信が持てるように励ましたり見守ったりする友達と一緒に遊びを進める楽しさや充実感を味わった。 ・見る側と演じる側との一体感、幼児の言動や反応等を読み取り、援助をすることの大切さがわかった。 ・発達に応じた援助の大切さを痛感した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的にプログラム作りをする幼児やあまり人前に出ない消極的な幼児も受け付けに来ていて、意欲的な姿が見られた。 ・友達と一緒に出演する子や一人で出演する子も自己発揮し、満足感を味わっていた。 ・友達のよいところや頑張っているところを伝え合う場を設けることで友達によさを認め合い、自信につながった。 ・みんなで楽しさを共有することで友達関係が広がった。

VIII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 教師が幼児のありのままの姿やよさを認めることで、幼児は安心感をもって主体的に遊びに取り組み、自己を発揮する姿が見られるようになった。(VII-1)
- (2) 集会の内容を見直し、幼児の興味・関心に添った遊びを取り入れたことで、幼児が満足感や充実感を味わい、友達と遊びを進める楽しさを共有し、一体感を感じた。(VII-1)

2 今後の課題

- (1) 幼児の主体性を生かした遊びの充実を図るための環境と援助の工夫。(VII-1)
- (2) 幼児の内面を深く読み取り、幼児の実態や発達に応じた援助の工夫。(VII-1)

《主な参考文献》

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
	『幼児理解と評価』	ぎょうせい	2010年
無藤 隆 監修	『幼稚園教育要領ハンドブック』	学習研究社	2008年
	『よくわかる幼稚園教育要領』	ひかりのくに	2009年
無藤 隆 編著	『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて』	別冊「発達」29』	
柴崎正行 編著		ミネルヴァ書房	2009年
柴崎正行 編著	『わかりやすい指導計画のすべて』	フレーベル館	2010年
河邊貴子 著	『遊びを中心とした保育』	萌文書林	2005年